

・中東などで MERS コロナウイルスの流行が拡大

4月から5月にかけてサウジアラビア東部のアフサ地区で新型コロナウイルスの集団感染がおきました(WHO Global Alert and Response 2013-5-2~22)。医療施設内で医療従事者や患者の家族などに感染が拡大した模様です。この結果、5月22日までに患者数は22人に達し、うち10人が死亡しました。また、5月下旬には東部の別の地区で集団感染がおきた模様で、既に5人の患者が確認されています(WHO GAR 5-29)。患者の大多数は50歳以上で慢性疾患を持つ者が多いようです。またフランスでは、4月末にUAEから帰国した65歳の男性と、病院で同室だった患者の2人がこのウイルスに感染していることが確認されました(WHO GAR 5-8, 12)。さらに北アフリカのチュニジアでも、5月中旬にサウジアラビアから帰国した66歳男性が肺炎で死亡しましたが、その家族2人がこのウイルスに感染していることが明らかになりました(WHO GAR 5-22)。昨年4月以来の患者数は中東を中心に49人にのぼり、その半数の27人が死亡しています(5月30日時点)。

5月24日に日本の厚生労働省は、今回流行しているウイルスを MERS(Middle East Respiratory Syndrome)と呼ぶこととし、このウイルスによっておこる病気を中東呼吸器症候群と命名しました。WHOによれば、このウイルスがヒトからヒトに感染していると疑われる事例もあり、今後さらに流行が拡大することが懸念されています。現時点で感染経路は明らかになっていませんが、一般にコロナウイルスは飛沫感染する病原体であることから、中東に滞在する際には手洗いやウガイを励行するようにしましょう。

・中国でのインフルエンザ A(H7N9)の流行は鎮静化

今年の2月から中国の沿岸部でインフルエンザ A(H7N9)の患者が発生していましたが、5月8日以降は北京で小児の患者が1例確認されただけで、それ以外の患者発生はみられていません(WHO Global Alert and Response 2013-5-17,29)。これまでの患者数は132人で、このうち37人が死亡してい

ます。このように流行が鎮静化した要因の一つは、生きた家禽を販売する市場を閉鎖した効果と考えられています。しかし、今後、流行が再燃する可能性もあり、引き続き警戒が必要です。

なお、WHO の発表によれば、中国でインフルエンザ様症状のある患者 2 万人を調査したところ、A(H7N9)ウイルスの感染者は 6 人だけでした (WHO Influenza page 2013-5-10)。当初、このウイルスの感染者はかなりの数いると予想されていましたが、その数はあまり多くないようです。

・シンガポールで蚊に媒介される感染症が増加

今年はシンガポールでデング熱の患者数が増加しており、5 月初旬までに昨年の 4 倍にあたる 4800 人以上の患者が確認されました (WHO Western Pacific Region 2013-5-1)。また、同国ではチクングニア熱の患者も増えており、今年は 4 月までにその数が 100 人以上になっています (ProMED 2013-5-8)。患者発生の多いのは同国北部のジョホールバル対岸ですが、中心部のシンガポール植物園近郊でも発生している模様です。

デング熱、チクングニア熱はいずれもネツタイシマカが媒介します。この蚊は日中吸血する習性があるため、昼間でも蚊の多い場所に立ち入る際には昆虫忌避剤などを塗布するようにしましょう。

・ハイチ、ドミニカでコレラ流行が続く

カリブ海のハイチでは 2010 年 10 月よりコレラの流行が発生していますが、今年の 3 月までに患者数は 65 万人 (死亡者 8000 人) に達しました (米国 CDC Traveler`s Health 2012-5-1)。首都のポルトープランスでも 17 万人の患者が発生した模様です。また、隣国のドミニカにも流行が波及しており、2013 年は 4 月初旬までに 800 人以上の患者が確認されました。

両国に滞在する際には飲食物に十分注意するとともに、コレラワクチンの接種を検討してください。